

## 卒業論文講評

小関 隆志

### 篠原 園子「ふるさと納税の仕組みと地域活性化に及ぼす影響」

篠原さんはふるさと納税が地域活性化にどうつながっているのかを、事例研究を通して明らかにしています。

ふるさと納税は返礼品の豪華さに目を奪われて、過当競争が起きているという批判もあります。成功している自治体は多くの寄付金を集める一方、そうでない自治体との間に格差が生まれているとも考えられます。

篠原さんはふるさと納税をめぐる問題に対し、「ふるさと納税は地域活性化につながっているのか」との批判的な視点から研究を進め、論文に仕上げました。

この論文でたいへん優れている点は、ふるさと納税で特に多くの寄付金を集めている自治体、ふるさと納税を導入して間もない自治体、ふるさと納税の返礼品をまだ導入していない自治体の3つを、同じ静岡県内で選び、比較したことです。

特に、返礼品をまだ導入していない自治体の視点を盛り込んだことで、ふるさと納税をめぐる多様な立場を、バランスよく見渡すことができるようになりました。返礼品を導入していない弱小の自治体がふるさと納税の影響で今後さらに税収を減らし、財政的に厳しくなることが予想されますので、篠原さんの問題提起は当を得ていると考えられます。その場合、ふるさと納税にフィットしない自治体はどのように財源を確保すればよいのかも考える必要が出てきます。

ふるさと納税が地域活性化につながっているのかという問いは、答えるのがちょっと難しいですね。何をもって地域が活性化したといえるのか、その定義や基準を厳密に定めるにくいということもありますし、ふるさと納税との因果関係を厳密に立証するのも容易ではありません。ただ、少なくとも自治体の財政にとってプラスになっているか、あるいは返礼品の供給による経済効果や雇用増がどの程度あったかということは検証できるでしょう。

これらの点は今後の研究の課題ですが、篠原さんの論文が重要な問題提起をしてくれているのは間違いありません。